

振り返る 今年の歩み

県勢この1年

穏やかに明けた昭和54年。統一地方選挙や総選挙が相次ぎ、大雨や台風で被害が広がった年となりました。不安が募る石油動向に対応し、省資源・省エネルギーの具体策を発表、限りある資源を有効に使う気運を盛り上げました。

こうした中で、わずかながらも景気回復の兆しがみられ、求人増大や県外の企業進出が相次ぎ、関係者をホッとさせた年ともなりました。

やがて来る'80年代は、県勢が一層発展することを期待して、この1年を振り返ってみましょう。

1月 雪なしのまま年が明け、昭和39年以来の異変となりました。県内各地の神社やお寺は、初もうでの客でいっぱいとなり、まずは、家内安全と商売繁盛を祈願しました。

ラグビーの新日鉄釜石、岩手大学、黒沢尻工業の活躍は、県民に快い話題を提供。新日鉄釜石は日本一の座を占めました。

雪なしの1月は、一方で水不足という深刻な問題を投げかけ、県南、沿岸地方では給水車の出動や急ぎ井戸掘りをする光景が見られました。

国体スケート競技会が盛岡市で開催。本県選手団体の活躍に盛んな拍手が送られました。

この頃、大阪では銀行強盗殺人事件が発生。人々を恐怖に陥れました。プロ野球の江川・小林のトレード劇では、スポーツファンが騒然。

2月 県は、昭和70年度を目標とする水の需給計画を発表しました。河川からの取水、ダム建設などで5億7,000万^トの水を確保するというものです。雪が降らないこの時期だっただけに、ことさら印象深く、節水が、この計画にとって大切であることを痛感させるものでした。集団風邪による学級閉鎖が相次ぎ、県営アパートに3LDKが登場したのがこの月でした。

大阪での銀行襲撃事件は、全国各地に類似の事件をひき起し、月末には盛岡でも郵便局への強盗未遂事件が発生。警察をあわてさせました。

3月 野菜の通年出荷を目指した、野菜出荷の一元化体制へのスタートがきられました。市場競争力に勝つために、県経済連と青果販売会社が契約、新鮮な野菜を早く市場に届けようとするもので、一元化は全国でも初めてのケース。一戸町には、野菜の鮮度保持と計画出荷をねらう真空冷却装置が完成し、一元化体制は万全となりました。

暖かい冬だったこともあって、初旬には大船渡から1カ月も早い桜の便り。統一地方選挙は、中旬に知事選、下旬に県議選が告示。県内は選挙一色に塗りつぶされました。

花巻・札幌間に定期便 ダム建設も着々進む

4月 養護学校の義務化がスタートし、久慈・前沢はまゆりの新設学校で入学式。消費者行政の充実をねらう消費生活サブセンターや、淡水魚の試験研究を進める内水面水産指導所が発足。あわびの稚貝を中心に、育てる漁業の種づくりを目指す県栽培漁業センターがオープンしました。

知事選挙は、激戦の結果中村直氏が初当選。開かれた地方主導型の県政を強調し、対話と活力あふれる県政へ向け力強く歩み始めました。

18歳以上の精神薄弱者の総合援護施設「中山の園」では入学式。巨大な福祉の村がスタートしました。昨年盛岡市の葦内遺跡で発見された古代人の足跡は「そのまま切り取る」ことを決定、永久保存することにしました。

5月 北海道と本県を結ぶ空の定期便が就航を開始しました。国立公園陸中海岸を北上するコースは、観光コースとしても超一級。利用者の時間短縮ばかりでなく、その景観に評判は上々でした。

洪水調節と工業用水の確保を目的にした和賀町の入畑ダムでは事務所開きが、盛岡市の中津川上流に建設中の網取ダムでは定礎式が、それぞれ行われ、その整備が着々と進みました。

国際児童年のことしは、これを記念した行事も盛りだくさんで、まずこの月には花巻市で「こいのぼり子どものつどい」が、2,000人の参加者で大にぎ



▲県政にナマの声を反映させようと、各種団体と積極的に懇談会。

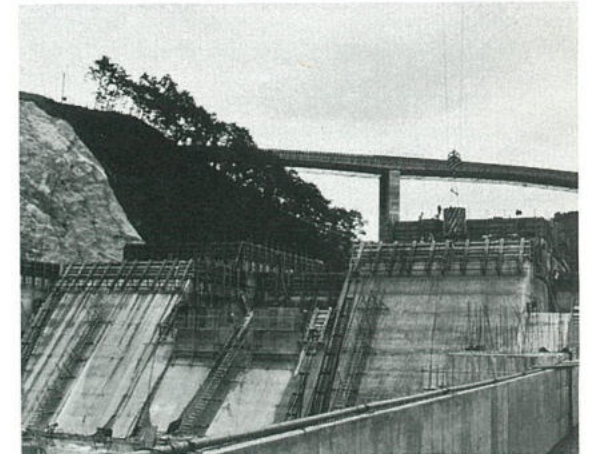
1979年
昭和54年 県勢ビックテン

1. 統一地方選挙で中村新知事誕生。
2. 集中豪雨と台風で被害額200億円を越し、災害復旧に全力。
3. 東北自動車道盛岡南・滝沢間が開通、花巻・札幌間に定期便が就航するなど高速交通網が一層充実。
4. 北上山系開発事業の第1号として新山貞任区域が完成。
5. 滝、網取、瀬月内などのダム建設着々進む。
6. 共立、富士通、トーヨーサッシ等企业進出が相次ぎ、雇用の増大に期待。
7. 水産資源の保護育成策を強化。栽培漁業センター、内水面水産指導所、漁業取締事務所がオープン。
8. 石油類の安定供給の拠点、釜石石油流通基地建設決まる。
9. 母子家庭の医療費助成制度を創設。県南児童相談所、厚生年金福祉施設、国民年金保養センターの建設始まる。
10. 文化の時代に向け県文化懇談会発足。

わいを見せましたが、こうした動きに逆行してインベダーが子どもたちを侵略。大きな破紋を投げかけました。

県と経済連が、野菜生産の出荷計画をまとめました。年間150億円の出荷が目標。

6月 石油事情の悪化は、そのほとんどを輸入に頼っているわが国にとっては大打撃。4日からは、ガソリンスタンドが休日一斉休業に入り、行楽の足を奪いました。県は、こうしたエネルギー事情に対処



▲洪水調節と水資源の確保のため、ダムの工事が進む。

するため、「省エネルギー、省資源対策推進会議」を設置。エネルギー節約の具体策を発表しました。

一関バイパスが開通し、一関市内の交通渋滞が大幅に緩和されたというニュースも。

対話の県政を目指す知事が、そのトップをきって、施設の子どもたちと座談会。引き続き市長会など地方4団体の代表者と懇談会を開催し、県政にナマの声を反映させようとする公約の実現への足がかりに。

東京都では県主催で工場適地説明会を開催。岩手にどうぞと企業に呼びかけました。80社、120人が参加する盛況ぶりで、月末には林業機械メーカーの進出など3社が決定。若者の地元定着をねらう本県にとって、明るい話題となりました。

大雨で被害続出 復旧に向け全力

7月 盛岡市に建設予定の福祉センターで起工式。福祉活動の拠点として完成が待たれています。

県内の石油供給の一翼を担う石油流通基地は、釜石市に建設することが決定、岩手オイルターミナル会社とすることとしました。一戸町に建設していた精神医療のとりで県立北陽病院が完成。にぎにぎしく落成式が挙行されました。

宮城県まで北上していた松食い虫が、月末には県内に上陸、国道沿いを浸食し始めました。県南の各農林事務所では汚染防止に全力。

56年の開業を目指す東北新幹線開通記念事業の基本構想をまとめました。物産展や記念植樹、試乗会、大規模な公園の建設、岩手の自然や観光のPRなど



▲大雨で県内各地が大きな被害。見渡す限り水びたしになった平泉町の水田地帯。

ブルガリアに派遣され国際親善の大役を
▼果たした盛岡少女合唱隊。



を進めていこうとするものです。

8月 6月補正予算の目玉事業がスタートしたのがこの月。まず、母子家庭の医療費助成制度。自己負担分の2分の1を助成するもので対象は約7,000人。東北では初めて、全国でも18都道府県が実施しているだけというものです。外傷や疾病によって寝たきりになっている人に対する研究費が助成されることになりました。盛岡少年少女合唱隊がブルガリアに派遣され、国際親善に一役買ってくれました。

4日午後から降り始めた雨は7日まで続き、県下全域に大きな被害をもたらしました。公共施設や農作物に110億円を超す被害を及ぼし、県は災害復旧に向け全力をあげました。

市町村で開催する県政懇談会はまず釜石市で。これを皮切りに9町村で。この月末に、ベトナム難民38人が宮古港に入港、私たちに改めて自由の尊さを感じさせた日となりました。

9月 盛岡市で学童が誘かいされ、殺された後山林に棄てられていたという事件が発生。まさか岩手県でこんな残酷な事件が…と県民をふるえあがせました。3人の犯人に対する非難はもとより、学校関係者や子を持つ親に、その指導はどうあればいいかを考えさせる事件ともなりました。

二戸市で発掘を進めていた上里遺跡で、縄文人骨7体を発見し関係者の注目を集めました。保存に適した地層でもないのに、なぜ？古代へのロマンが広がりました。本県の文化を高めす野を広げようと、県文化懇談会を設立、初会合を開きました。地域文化の普及と振興、文化行政のあり方などを討議することになっています。

本県が生んだ偉大な政治家推名悦三郎氏が死亡したのが30日・卓越した政治手腕は全国民の認めるところで、その死が惜しまれています。

夢が広がる高速時代 「ひかり」が試運転

10月 台風20号が県内をまともに通過し、またまた被害が広がりました。豪雨と強風で小学生1人が死亡し、収穫を前にしたリンゴや養殖漁業に大打撃。被害額は106億を超すものとなりました。

東北自動車道は、盛岡南・滝沢間が開通、みちのくのハイウエーはさらに北に延びました。一関に建設予定の県内3番目の児童相談所では起工式が。

北上山系開発の計画から10年、県内を8区域に分けその開発を進めていましたが、遠野市と大槌町を結ぶ「新山・貞任区域」が完成、その先陣となりました。大規模畜産基地づくりをめざす本県の一大事業であるだけに、地域の人たちの期待は一層ふくらんでいます。

高速時代の一方の旗頭東北新幹線は、開通まであとわずか。盛岡駅のターミナルビルでは起工式が行われました。

11月 55年10月開館予定の県立博物館は、工事が急ピッチで進められており、定礎式が行われました。県立の大規模博物館は初めてというので、関係者の期待を一心に集めています。

県の発展計画を策定するため、初会合が開かれました。岩手県総合計画審議会です。エネルギー事情の変化や、行政需要の多様化など、これまでの計画



▲降雪時の車両試験のため、待望のひかりが本県で試運転。

文化の時代に対処し
▼県文化懇談会が発足



を見直し、新しい総合計画を策定することになっています。

国際児童年記念集會を盛岡市で開催、大盛況を極めました。この1年、「わが子への愛を世界のどの子にも」と、いろいろな行事や事業を実施してきました。子どもの幸せと明るい未来を考えた年となりましたが、この盛り上がりがいままで続くようにというわけです。

12月 開会中の県議会に、青少年のための環境浄化に関する保護育成条例案が提案されます。青少年の非行をおおるような雑誌の自動販売機による販売や、不純異性交遊に結びつくようなわがわがしい場所を規制し、生活環境を浄化するのがねらい。

10月末に仙台港に陸揚げされた「ひかり」は、降雪期間の車両試験のため一関・北上間で試運転。間もなく訪れる新幹線時代の到来は、県民に限りない夢と希望を与えてくれます。アイボリーとモスグリーンに塗りわけられたスマートな車体が、冬のみちのく路を、もうすぐ走るのです。

※ ※ ※

この1年、私たちの生活が真に豊かであったのか？来年こそは、より以上の年であれと願いつつ…。



▲高速時代の中で、東北自動車道は滝沢まで開通